

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
・国際交流拠点形成事業)

事業名：「やお まち 博物館事業」

事業者名：財団法人八尾市文化財調査研究会

住所：大阪府八尾市幸町四丁目 58 番地の 2

TEL：072-994-4700

FAX：072-994-4700

HPアドレス：<http://www.kawachi.zaq.ne.jp/dpgwg309/>

連携事業者名：NPO法人やお文化協会

久宝寺まちづくり推進協議会

八尾古絵図研究会

会 場：八尾市立歴史民俗資料館

八尾市まちなみセンター

環山楼

八尾市立埋蔵文化財センター

事業期間：平成21年7月21日 ～ 平成21年11月30日



1. 館の使命と本事業の関係

当館の使命は、多くの市民にふるさと八尾の歴史を知ってもらうことにより、ふるさと八尾への愛着を深めるための活動を行う。そのために、自ら学ぶ、創る、伝える、を基本理念として資料館活動を行う。

本事業は、八尾の町の基盤となった三つの寺内町を取り上げたもので、戦国時代から織豊期につくられ、江戸時代は在郷町として地域社会の経済、文化の中心地であった寺内町のさまざまな歴史を学び、自ら現場を歩き、地域の人々と触れ合うことで、自ら学ぶ、創る、伝える、の基本理念に沿う活動を行うものである。

2. 企画内容

①事業目的

八尾市内には、戦国時代から織豊期にかけて造られた寺内町が三つあります。久宝寺、萱振、八尾です。これらの寺内町は現在でも八尾市の中心地となっています。各寺内町には、中核となった寺院のほかに、久宝寺には八尾市まちなみセンターがあり、八尾には江戸時代の郷塾で八尾市指定文化財環山楼があります。また、萱振の近くには、八尾市立埋蔵文化財調査センターがあります。

この事業は、これら市内の中核となった寺内町を市民に親しんでいただくために、八尾市立歴史民俗資料館が特別展「やお まち 発見 八尾の寺内町—久宝寺・萱振・八尾—」を実施するとともに、三つの寺内町の各施設と連携を取ります。

②事業概要

八尾寺内町成立400年記念特別展「やお まち 発見 八尾の寺内町—久宝寺・萱振・八尾—」展にあわせて、三寺内町及び近辺の文化財施設、市民団体、NPOなどと協力した事業を実施します。各施設、団体に協力いただくのは、ミニ展示、歴史ハイキング、スタンプラリーなどです。また、現在の寺内町研究の最前線の研究を紹介するため、シンポジウムを実施します。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

展示事業

八尾市まちなみセンター「寺内町を掘る」平成21年10月10日～11月30日

久宝寺、萱振、八尾の寺内町で発掘した史料やパネルを展示した。

環山楼「綿であそぼう」平成21年10月10日～12日

八尾寺内町は在郷町として河内木綿の集散地として栄えたため、木綿展示と藍染などの体験を行った。環山楼の指定管理者であるNPO法人やお文化協会に協力をいただいた。

八尾市まちなみセンター・顕証寺「寺内町を描こう」平成21年10月18日～11月1日

一般市民及び久宝寺小学校の協力で多くの寺内町の絵を展示した。作品が多数だったため、急遽、八尾市指定文化財顕証寺東長屋を会場に追加して実施した。



「綿であそぼう」展示風景



「寺内町を描こう」ボランティアによる展示

歴史ハイキング、スタンプラリー

久宝寺寺内町スタンプラリー 平成21年10月18日

八尾まちなみセンターを出発点として9ヶ所の寺院や史跡、個人住宅を廻った。今回、はじめて国登録有形文化財の浅野家住宅、高田家住宅を一般開放し、市民に見ていただくことができた。

萱振寺内町歴史ハイキング 平成21年11月15日

萱振寺内町は、どのような構造で、なにが重要であるのか。全くわかっていなかった。今回萱振寺内町絵図を作成することで、萱振寺内町の範囲、見るポイントなどを紹介できた。萱振に住む市民も多数参加いただき、興味深い話もしていただき、意義深いハイキングとなった。また、恵光寺では住職にお話しをいただき、萱振寺内町の歴史的意義も深まった。

八尾寺内町スタンプラリー 平成21年11月23日

環山楼を出発点として7ヶ所の寺院、史跡などを廻った。八尾寺内町は、寺内町の範囲などが十分市民に伝わっていないため、市民によいアピールとなった。

シンポジウム

「やお まち 発見 八尾の寺内町シンポジウム」平成21年11月15日

開会挨拶とシンポジウムのねらい 小谷利明（八尾市立歴史民俗資料館館長補佐）
報告 仁木宏（大阪市立大学教授） 「寺内町の成立—戦国社会の到達点」
小谷利明（八尾市立歴史民俗資料館館長補佐）
「八尾の三寺内町の歴史—久宝寺・萱振・八尾—」
大澤研一（大阪歴史博物館学芸員） 「近世寺内町の変容—近世への移行」
シンポジウム（仁木、大澤、小谷）
閉会あいさつ 橋本久（八尾市立歴史民俗資料館館長）



久宝寺寺内町スタンプラリー会場風景



シンポジウム風景

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 789 人

(3) 事業により作成した印刷物等

「やお まち 発見 八尾の寺内町」ポスター・チラシ
「やお まち 発見 八尾の寺内町シンポジウム」冊子
「久宝寺寺内町マップ」
「八尾寺内町マップ」
「萱振寺内町マップ」

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事
なし

○テレビ，関連誌等
なし

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

この事業は、市民研究会の八尾古絵図研究会の成果を地元の寺内町の地域の人々と共有しながら、連携して事業を実施する事業である。また、市内の寺内町の歴史的意義や市民の認知を深める活動を行うことで、寺内町を深く学び、自らつくり、世代を超えて伝えあう活動を行うことを目的とした。

まず、寺内町現地見学を兼ねたハイキング、スタンプラリーでは、寺院や虎口をはじめ、はじめて国登録有形文化財の住宅を公開し、当主やボランティアによる案内も行った。また、地元住人も昔の寺内町の姿を自発的に紹介いただき、より深い情報を得ることができた。更に、新発見の古絵図などを復元したマップを作成して、寺内町の姿をよりリアルに共有することができた。

久宝寺で行った展示では、多くの小学生が寺内町の絵を描き、また絵画クラブの人たちの参加も得られた。八尾で行ったワークショップでも、幅広い世代による活動ができた。また、この間、八尾市の社会科教育研修会で寺内町の歴史を学ぶ講習を実施し、各寺院での講演が依頼されるなど、地域からの反応もあり、それに参加した市民も多かった。

今後は、これらの活動をどのように継続するかが、問題となる。拠点となった八尾の環山楼は指定管理者がNPOであり、作成した地図を活用して更に事業の継続を応援したい。また、久宝寺はまちづくり推進協議会が中心に活動しており、積極的な活動を展開しているので、展示の支援など更に充実した活動を行いたい。また、萱振は、寺院と協力しながら、今後の展開を考えていきたい。